

持続可能な農業モデル構築へ

若手農業者が支援団体を法人化



日高町 アssenブル日高

【和歌山】日高町では、若手農業者らが中心となり、4月1日に農業者支援団体（一社）アッセンブル日高（白井雄太代表理事）を設立。町や農業委員、JAなど関係機関と連携し、さまざまな活動をスタートさせている。

その活動の一環が、同町小浦地区での「持続可能な農地活用モデル」の構築だ。同地区は全住民が95人の小さな集落。農地面積は約10ヘクタールだが、人口減少や高齢化により、農業の後継者がほとんどいない状況に陥っていた。

そこで、同社が地区の農地の大半を借り受け、ドローンやラジコン草刈機による省力化、緑肥の導入や分業化による生産コスト低減を通じて、農地の維持管理を担っていく。

また、1次産業を支援する地域商社（株）はまさとと連携した「農の関係人口創出プロジェクト」で協賛企業を募り、圃場管理全般を同社が担うことも、生産された農作物を企業に引き渡す「地域支援型農業」の取り組みも予定している。

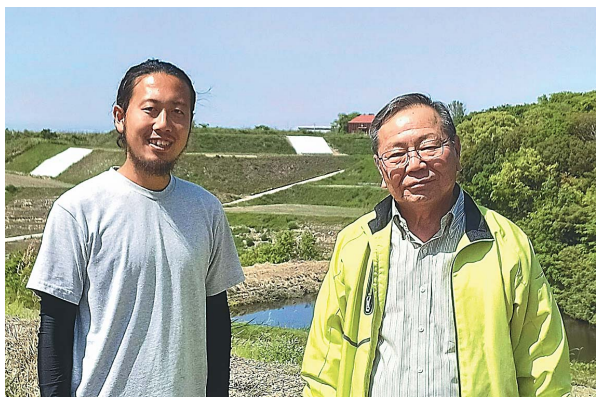
その他にも、地中海原産の夏野菜のトレビス栽培を通じた農業者の収益確保など、さまざまな取り組みを企画している。

同町の農業委員も務める白井代表理事は「一般的な農地集積・集約化では、ほとんどの場合は農地所有者は農業から縁が切れてしまう。雇用や農業体験イベントなどを通じて、地域農業から住民を置き去りにすることのない農業のモデルを作りたい」と話す。

（田村健伍）

雇用創出、「地区の未来」拓く

淡路市 大坪だんだんファーム
集落営農、観光農園を柱に



【兵庫】中山間地域の急傾斜地に広がる淡路市大坪地区は、高齢化と耕作放棄地の増加で集落の存続危機に直面していた。

こうした中、定年退職を迎えた岡田昭男さんと同世代の3人が中心となり、2012年に営農組合を立ち上げるとともに（後に株式会社化）、15年からは圃場整備事業に着手するなど、一集落一農場方式での

集落営農に取り組んできた。淡路島の温暖な気候を生かし、「水稲の裏作」として、タマネギ、ブロッコリーなどの野菜を栽培。20年にはイチゴ、ピワ、イチジク、ブドウなどの観光農園や直売所などの「大坪だんだんファーム」もオープンした。利益は地区に還元することを目標に、常時雇用7人、パート21人の雇用も生み出した。

また、岡田さんたちの

農のAIマネージメント探る

滋賀県稲作経営者会議がザルピオ研修会

【滋賀】県稲作経営者会議（久保田九会長）はこのほど、近江八幡市でザルピオフィールドマネ

ージメントの普及推進を目的とした研修会を開催。会員ら50人が参加した。写真。

同ザルピオは、人工衛星から各農家の圃場を確認し、生育状況や地力を可視化、AIによる生育の予測などが可能となる

「今後の規模拡大や集約化の推進にはAIは有効。多くの会員にザルピオを取り入れてもらい、経営向上につなげてほしい」と話していた。

（中野剛）



青年奮闘中

箕面市 生田梨恵さん

▷24

「自分の経営が成功する」として、農業公社の研修生たちもいずれ箕面市内で就職したいと思ってくれたら」と生田さん

え、正式にスタッフとして農作業に従事するようになった。

現在は独立し、箕面市西宿などの約30坪の農地で、ハウス栽培のコマツナを中心に多品目の野菜を生産。約9割を学校給食に出荷している。

委員就任後、地域計画



策定のための集落座談会にも出席。担い手の高齢化や減少が進む実態を目的の座談会に出席。担い手の高齢化や減少が進む実態を目的の座談会に出席。担い手の高齢化や減少が進む実態を目的の座談会に出席。

地域に若手農家を増やしたい

多品目の野菜、学校給食に出荷

「同世代の仲間を増やし、これからの地域農業を活性化させたい」と話す生田さん。将来の地域農業を担う若手農家として意気込み十分だ。

（沼田湧悟）

10月に京都で農業ビジネス商談会・展示会



売り手を募集中

【京都】京都市勧業館「みやこめっせ」で10月24日に開催される「きょうと農業ビジネス商談会・展示会2024」の売り手の募集が始まった。府内の農林漁業者・食品製造加工業者と全国の販売業者をマッチングさせ、販路開拓を支援する。出展方法は、①事前登録している。（阿部高廣）

昨年も多く商談が行われた日に開催される「きょうと農業ビジネス商談会・展示会2024」の売り手の募集が始まった。府内の農林漁業者・食品製造加工業者と全国の販売業者をマッチングさせ、販路開拓を支援する。出展方法は、①事前登録している。（阿部高廣）

録制のポイント型商談十フリー商談②フリー商談のみの2パターンから選択できる。フリー商談は、ブースに訪れる買い手と事前予約無しでフリーに商談できる。

限られた時間の中で多くの事業者と出会うことができ、販路拡大につながる。締め切りは6月14日。商談の進め方の研修会も予定している。

詳細は、『農業ビジネスセンター京都』のホームページ（<https://www.agr-k.or.jp/nbc-kyoto/contents/1200/>）で紹介している。（阿部高廣）

【奈良】「やればやるほど結果が出るのが農業」と話すのは、桜井市の志野光寛さん（51）だ。古都華などイチゴの高設栽培をしている。

志野さんは、ホテルマンとして働いていたが、残りの人生で地元で農業をすることで、食と農をつなぐ橋渡し役になりたいという思いから、4年前、なら食と農月に就農した。

「農地確保が一番苦労し



「6月中旬まで収穫に励む」と話す志野さん

「ました」と話す志野さん。「なら担い手・農地サポートセンター」から桜井市吉備地区の農地が紹介され、同市農業委員会の高橋秀壽委員の協力などもあり、農地確保につながったという。

志野さんは「栽培面積を増やしながら、収量を増やしていきたい。また、イチゴを使った6次産業化にも取り組みたい」と語る。（木村将史）

近畿

畿

近畿総局
京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入
丁子風呂町104-2 府庁西別館内
075-441-3660

滋賀県支局
075-23-2439

大阪府支局
06-6941-2701

兵庫県支局
078-391-1221

奈良県支局
074-222-1101

和歌山県支局
073-432-6114